



固定社会の転換という今日の現実

令和7年3月16日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

効率性と生産性の追求は、既存社会システムの崩壊を与えるものである。それらは相互補助社会という日本の源流が、完全に自己の転換を与えるものなのである。

これらは西洋社会の合理主義におけるグローバルスタンダードという黒船が既存現実へ新たな未来を要求しているのである。

これらが幕末、敗戦に続く、最後の選択を突き付けられているのである。これらはアベノミクスの真実を知ることにおいて必ず理解できるのである。

これらへの対処は、唯一彼らの合理主義における今日における変化という、生産性と効率性基準の受け入れを求める以外不可能である。

これらはグローバルスタンダードにおける自己の参加を与えることができるのである。

これらはビジネスにおける最後の挑戦であることは正しいかもしれない。これらが統一と永続する企業基準をクリアし企業経営の確立を実現できるからである。

これらは、西田幾太郎の善の研究と土井健郎の甘えの構造という著書がわかりやすい。

善という飛躍と、甘えという現実の崩壊と考えることが正しいのである。これが西洋の合理主義と原理主義における新しい自己の構築なのである。

これらは西洋の近代学術主義という潮流であると認識できるのである。これらは、企業においては、MBA システムという選択なのである。

これらに対して日本は明確に自己の選択を要求される。これらが国策の制定であり、宰相の選択なのである。

これら国家の岐路に対して正しい政治判断を得ることが国家がその沖残りを可能とできることであるという認識は必ず正しいと考える。



